

執 筆 基 準

1961.10 整理・改正

目 次

前言

A) 見出字		E) 符号について	23
(I) 見出字		(I) . 黒点	23
(II) 見出語	5	(II) , コンマ	23
B) 表音について	5	(III) : コロン	24
(I) 字体	5	(IV) - ハイフン	24
(II) 声調	9	(V) ? 疑問符 ! 感嘆符	24
C) 排列	10	(VI) 標点符号	24
(I) 見出字	10	(VII) () 括弧	24
(II) 見出語	10	(VIII) ~ 省略符号	25
(III) 見出語で省略してもよい字のある場	10	(IX) []	26
合	11	(X) ⇒ イコール矢印	26
(IV) 見出語の集中について	13	(XI) → 参照符号	26
(V) 重畳形について	14	(XII) = 等符号	26
(VI) 形容詞・副詞の語尾〔的〕〔地〕の	15	(XIII) ↔ 対立符	26
処理	15	(XIX) _ アンダーライン	27
(VII) ローマ字の取扱い	16	(XV) …	27
D) 解説について	17	F) 略号	27
(I) 分類	17	(I) 同前. 同上. 同下	27
(II) 日本語	18	(II) 発音上の略号	28
(III) 中国語	20	(III) 言い方についての略号	29
(IV) 外国語	20	(IV) その他の略号	33
(V) 学名	20	(V) 略号の位置について	33
(VI) 数字	20	(VI) 略号使用例(補遺)	33
(VII) 同義語・類義語	21	G) 文字について(雑)	34
(VIII) 段落	21	(I) 品詞	34
(IX) 並列	21	(II) 文の構造	35
(X) 姓・複姓	22	目次うら 軽声について	(2)
(XI) 人名用字	22	化音の表記について	(3)
(XII) 地名用字	22	付録 (I) カード整理上の諸注意	45
(XIII) 訳音字	22	(II) 整理の分担区分	47
		(III) 現在(1960.10.7)の編集方針および 進捗状況の大略	48
		(IV) 語詞採録のための文献資料	49

軽声について

① 詞（あるいは文）に注音する場合、音節の強さを次の段階に分けて表示する。

① 常に元来の声調に発音されるもの。〔参加〕 cānjiā

② 場合により軽声あるいは元来の声調に発音されるもの。○印を注音。

綴りの前につける。〔刚才〕 gāng ○ cái 〔残疾〕 cán ○ jī 〔请教〕 q i ng ○ jiào
なおこの②に属するものは特に吟味してえらび出す。

③ 常に軽声に発音されるもの。・印を注音綴りの前につける。

〔情形〕 qíng · xíng

この常に軽声に発音されるもののうち、特定のものは声調符号をつけない。

その範囲は次のとおりである。

語気詞 了 · le 啦 · la 的 · de 哪 · na 呢 · ne 哩 啊 呀 吧 吗 · ma

接尾字 着 了 们 的 地 · di 子 · zi 头 儿 么 · me

量詞 个

名詞重疊詞 哥哥 星星

その他2字目が常に軽声に発音される重疊形 〔油汪汪儿地〕 yóu wāng · wangr · di

〔乖乖〕 guāi · guai 〔混混儿〕 hùn · huer

特殊名詞 衣裳 葡萄 （その他、“同音字典”による）

動詞・形容詞の後の 得 と 不

注意 〔得〕〔的〕〔地〕〔子〕に関する使用上の心得。

① 可能不可能をあらわす〔得〕は必ず〔得〕と書く。

〔拿得动〕 ná · dedòng

② 程度・状態をあらわす〔得〕は〔的〕と書いてもよい。

〔说得好〕〔闹得他……〕〔走得快〕（以上〔的〕でもよい）

③ 副詞接尾字の〔地〕は必ず〔地〕と書く。〔的〕と書いてはならない。

表音は di の軽声 · di とする。

〔渐渐地〕 jiàn · jiān · di

④ 接尾字の〔子〕は zi の軽声 · zi とする。

〔孩子〕 hái · zi 〔桌子〕 zhuō · zi

②補足語の軽声表記については次の基準による。

① 趨向補足語 〔走开〕 zǒu · kāi 〔走起来〕 zǒu · qǐ · lái

〔念下去〕 niàn · xià · qù 〔写出来〕 xiě · chū · lái

可能補足語 〔看得见〕 kàn · dejiàn 〔回不来〕 huí · bu lái

〔念不下去〕 niàn · buxiàqù 〔写不出来〕 xiě · buchū lái

程度〃〃 〔跑得快〕 pǎo · dekuài

若干の結果〃〃 〔听见〕 tīng · jiàn 〔拿开〕 ná · kāi 〔急死〕 jí · sǐ

② 上記に目的語が入った場合

趨向補足語 〔拿出一本书来〕 ná · chū yīběnshū · lái

〔说起话来〕 shuō · qǐ huà · lái

この場合、目的語の前も後も軽くなる。

可能 // 〔想不出办法来〕 xiǎng · buchū · bàn · fǎ · lái

〔写不出字来〕 xiě · buchū · zì · lái

この場合、目的語の前は強く、後は軽くなる。

㉞ 〔过〕〔进〕〔回〕〔成〕

〔走过来〕 zǒu · guò · lái

〔拿进来〕 ná · jìn · lái

〔送回去〕 sòng · huí · qù

〔说成〕 shuō · chéng

- ③ “轻声词彙”に収められている詞はすべて轻声と認める。
 ④ “汉语词典”で（・）轻声になっているものは全部轻声㉞の部とする。
 ⑤ “汉语词典”で ・轻声になっているものは全部轻声㉞の部とする。
 ⑥ “轻声词彙”にだけ載っていて“汉语词典”にないもの、または“汉语词典”に元来の声調符号だけがつけられているものは轻声㉞か㉞に入るが、その決定はその都度検討してきめる。

儿化音の表記について

- ① 〔儿〕字をともなうことによって変化した発音はそのま記載する。

in + er	→	ier	今儿 jīer	信儿 xièr
un + er	→	uer	村儿 cūer	唇儿 chuíer
ün + er	→	üer	裙儿 qúer	
i + er	→	ier	细儿 xìer	鼻儿 bìer
ui + er	→	uer	嘴儿 zuǐer	
翘舌葉声 + er	→	er	事儿 shèr	翅儿 chìer
平舌葉声 + er	→	er	字儿 zìer	子儿 zǐer
ü + er	→	üer	鱼儿 yúer	女儿 nǚer

以上の場合以外の音節にはすべて r だけを加えればよい。

a + er	→	ar	花儿 huār
ai + er	→	ar	牌儿 páir
an + er	→	ar	圈儿 quār
ao + er	→	aor	好儿 hǎor
e + er	→	er	节儿 jiér
ei + er	→	er	味儿 wèr
en + er	→	er	门儿 ménr
iu + er	→	iur	球儿 qiúr
o + er	→	or	婆儿 pór
ou + er	→	our	猴儿 hóur

u	+	er	→	ur	股儿	gǔr
uo	+	er	→	uor	错儿	cuòr
ng	+	er	→	ngr	方儿	fāngr

四声符号は主要母韻の上につける。

今儿 jīer 节儿 jiér
 鱼儿 yúer 月儿 yuèr

このように同じつづりでも四声符号の場所が異なる場合がある。

- ② [儿] 字をつけてもつけなくてもよい場合の表記は次のようにする。

剧本(儿) jùběn(bér) 地方(儿) dì·fāng(r)
 小帽(儿) xiǎomào(r) 慢慢(儿)地 màn·mǎn(mār)·di

以前に、～という注音のしかたもあったが、この方式は使わず、上例のように()を用いて注音する。

執筆基準(第11次改正)

1961.10

前言

本辞典では次の三つを基本としている。

- ① 使用漢字は中国のすべての簡体字を用いる。
- ② 発音表記法は“漢語拼音方案”を用いる。
- ③ 配列は上記の表記法によるアルファベット順とし、さらに声調の区別によって順序を定めて配列する。

A) 見出し

(I) 見出字

- ① 見出字は簡体字を書いた後に繁体字をならべて、同じ[]内に示し、間を黒点・で区切る。

例 [标·標] biāo [临·臨] lín [业·業] yè

- ④ 𠂇 𠂈 𠂉 𠂊 の4個は、単独で用いられない。偏のときだけ用いられ、つくりには応用されない。

例 鉴 餐 罍

- ⑤ 金へん・食へんには、それぞれ、𠂇 𠂈 𠂉 𠂊 の二通りの書きかたがあるが、筆写体としては𠂇 𠂈 𠂉 𠂊 の方を採用しておく。

- ⑥ 今後のこの種の変化に対しては、そのつど従ってゆき、以後の工作に必ず使用する。

- ㊦ 偏旁簡化表の使用にともない、従来の簡体字の一部は見出字に表示しない。

例 [鸡・鷄(雞)] この字は第二批で[鸡]と簡化されたが、その後、偏旁簡化により[鳥]は[鸟]と書かれることになり、その結果[鸡]と簡化された。中間的な[鸡]の字は自然的に不必要と思われるため、見出字としてかかげないことにする。

その他の例 [镊・鑷](镊を省く) [辆・輛](輛を省く) [驴・驢](驢を省く)
[购・購](购を省く) [舰・艦](艦を省く)

- ㊧ [辮][辮][辮][銜][儲]などは、偏旁簡化を適用するのかどうかの問題について各字について検討し、だいたい二つの場合に分けられる。

偏旁簡化を応用しないもの。[銜][辮]

偏旁簡化を応用するもの。[辮][儲]などは、許に彡(さんずい)のついた形、諸に亻(にんべん)のついた形と見なされるため、簡略化して[辮][儲]とする。

中国側で大体以上のような傾向があるらしく思われるので、今後その方針で簡化できるものは簡化してゆく。

- ㊨ [寬]の字はいろいろ文献を調査した結果、[寬]とする。点は打たない。

[殤][觴]などの字は偏旁簡化を応用するかどうか問題であるが、とりあえず[易]の部分だけを簡化して[殤][觴]としておく。すなわち、[衍]の字の応用によって[觴]などとしてしまうことは避ける。(“新华词典”に同じ)

- ㊩ [厂][广]は、それぞれもと[庵]の簡体字として通用していた(“漢語詞典”1094頁)。しかし、現在では[厂]は[廠 chǎng]の簡体字、[广]は[廣 guǎng]の簡体字として正式に用いられている。本来ならば[厂][广]とも[庵]の略字であったことを表示すべきであるが、例えば[广・廣] guǎng ān と注音して、ān までを guǎng のところに表示するのは辞典の利用者を混乱させるだけで、あまり意味がない。またこれを除去してもたいして不都合ではないので、この ān は取り除くことにする。(“新华词典”に同じ)

- ② 異体字は“異体字整理表”にもとづいて、正体字と認められたものを前にし、整理された異体字は()内にかこんでならべる。

[楞(楞)] lèng [杯(盃・栴)] bēi [据・據(據)] jù

- ㊪ 異体字の範囲について

㉑ “異体字整理表”に載せられている異体字は全部載せる。

㉒ 上記②以外に“同音字典”・“漢語詞典”にある異体字も載せる。この場合、“同音字典”と“漢語詞典”の取り扱いが異なる場合は、“同音字典”に従う。

[总・總(總・摠・摠・捻・摠)] zǒng

- ㉓ [草麻油]の[草]のように、本来は[萑]であるが、[草]を一時借りてきて使用している場合、[草]にはもともと意味があり、この二つは正体字と異体字として取り扱うことはできない。このような場合は次のように処理する。

〔草〕 bì | 〔薨〕 bì
 ⇒ 〔薨 bì〕 | = 〔草 bì〕 …

④このほかに正式ではない略字や異体字などがたくさんあるが、それらの字の採用ほど慎重に行う。

〔賽〕に対する〔宐〕は採用する（これは正式な簡体字ではないので、異体字として取り扱い、〔賽・賽（宐）〕として採用しておく。

ほかに〔罍〕に対する〔罍〕などは、未だ圧倒的に使われているとは言えないので採用しない。

なお、〔秒〕など近来使われるようになった字で“同音字典”、“漢語詞典”にないものは積極的に見出字として採用する。

⑤合成略字の処理について

①〔𧯛〕〔𧯛〕〔𧯛〕などを合成略字という。

②合成略字は巻末に合成略字表を設け、一律に表示する。

③合成略字は筆画索引の中にすべて採用し、合成略字表を見るよう指示する。

例	园	yuán	967	
	国	guó	294	総画索引の場合、
	囿	→合成略字表	1050	図書館の略字 囿 が国の次に来る。
	图	tú	799	
	困	jūn	438	

④合成略字はまた本文中にも入れる。ただし、略字自体の発音はなく、読む場合は合成される以前の形に復原して読まれるため、見出字としてかかげることはできない。

であるから、それぞれのもとの語の注釈の中で説明することにする。

例 〔图书馆〕 túshūguǎn 図書館：〔囿〕は合成略字。

〔千瓦〕 qiānwǎ キロワット：〔𧯛〕は合成略字。

注意 〔甬〕〔𧯛〕〔𧯛〕などはこの字自体すでに発音をそなえ、正式な語として通用しているので合成略字と見さない。これらの字はふつう一般に通用している呼び名を用いて合体字と言う。説明のしかたは次のようにする。

例 〔甬〕 béng 〔不用 búyòng〕の合体字。

③ [- 儿, - 子]または[- 儿]または[- 子]について

見出字の解説にあたって、ある意義グループには〔儿〕や〔子〕を接尾字にとることがかなり認められるときがある。その場合、該当項の注釈の冒頭に[- 儿, - 子]（あるいは[- 儿]または[- 子]）を置き、その項の意味のときは〔儿〕〔子〕がよくつくということを表示する。なお下例が示すように、その注釈内の“～”符号は、見出字をふくめ、それに〔儿〕〔子〕をつけたいずれの場合にも通じて用いられることをあらわす。もし〔儿〕〔子〕をつけてはならない例、またどちらか一方しかつかないとはっきりわかっている例を出す場合、“～”符号は用いないで実字

をあてる。

例㉑ 〔帮・幫(幫・幫)〕 bāng

①……. ②[- 儿, - 子]側(がわ) 〔菜 cài~〕……. 〔鞋 xié~〕…….

例㉒ 〔椅〕 yǐ

①[- 子]いす. 〔一把 bā 椅子〕 いす一つ. 〔桌 zhuō 椅〕 テーブルといす.

〔藤 téng~〕 とういす. 〔太 tài 师椅〕…….

例㉓ 〔枣・棗〕 zǎo

[- 儿]なつめ. 〔红 hóng~〕……. 〔枣泥 ní〕…….

例㉔ 〔刀〕 dāo

[- 儿, - 子]刀. ナイフ. 刃物. 〔菜 cài~〕……. 〔铤 xī 刀〕…….

例㉑の〔菜~〕は、すなわち〔菜帮〕〔菜帮儿〕〔菜帮子〕の三通りのいずれにも読んでよいことをあらわす。例㉒の〔一把椅子〕は、すなわち〔一把椅〕とは読まないことをあらわし、実字をあてる。〔藤~〕は〔藤椅〕でも〔藤椅子〕でもよいことをあらわす。

㉕ これらが見出語として採用された場合は、次のように処理する。

例㉑ 〔菜帮(儿)〕 cài bāng(r) = 〔菜帮子〕…

┆
〔菜帮子〕 cài bāng · zi ⇒ 〔菜帮(儿)〕

例㉒ 〔帮(儿)〕 bāng(r) → 字解②

┆
〔帮子〕 bāng · zi → 字解②

④ 次のような場合は訳語を変える。

〔瓣〕 bàn

①花卉. 〔花~(儿)〕 花びら. ②…….

〔瓣〕という一字の場合は文語とみなされるから“花卉”という訳語を用い、〔花瓣(儿)〕の場合は日常の口語であるから“花びら”という訳語を用い、そのニュアンスのちがいを出すようにつとめる。

⑤ 見出字の解説中に出す用例はなるべくその見出語に出せないもの(その字で始まらない語)を用例として出し、重複を避けるようにする。たとえば、〔口〕の字解に〔开~说话〕〔一~刀〕〔关~〕などを載せ、見出語のほうに〔口才〕〔口气〕などを出す。もし見出字の字解に〔口才〕を出した場合、見出語の〔口才〕の項は

〔口才〕 kǒu cái → 字解② とする。

⑥ 同一の語を見出字の用例として、また見出語として重複させて出してもかまわない。しかし、それは1, 2の例にかぎり、なるべくなら重複させないことをたてまえとする。この場合二つの処理法がある。

④どちらかを → で導く.

⑤両方に注釈をほどこす. この場合は叙述のくいちがいがないように注意する.

⑥注音字母 ㄅㄆㄇㄏ…… ㄹㄺㄻなどは一律に見出字として採録しない.

⑦カードの処理について

例㉑ [当・當・噹] dāng dàng diāng

A) dāng (I) [当・當] ①…… ②…… ③…… (II) [噹] ……

B) dàng [当・當] ①…… ②……

C) diāng [噹] ……

以上の場合、dàng および diāng の派生カードの処理は次のようにする.

[当] diāng ⇒ dāng C)

すなわち、派生カードには簡体字だけを書き、いちいち [当・當・噹] などと繁体字・異字体を表示しない.

例㉒ [杆(桿)] gān

A) gān (I) [杆] ①…… gān と (I) の間を1字分あける.

A) gān [杆] [- 儿, - 子]…… [- 儿, - 子]がついて、しかも前に繁体字・異字体を示す場合は、しばらくこのとりきめに従って処理する. [杆] のかっこは大きく、

A) gān [- 儿, - 子]…… [- 儿, - 子] のかっこは小さい.

例㉓ [脗(肱・骼)] gē gé

A) gē [脗(肱)]

B) gé [骼]

上記のようにA) の方で [脗(肱)] と2字を入れ、それが gē の系統であることを明示する. 同様の例で

例㉔ [同(仝・衢)] tóng tòng

A) tóng [同(仝)]

B) tòng [衢]

すなわち、A) は [同(仝)] が tóng に属し、B) の tòng は [衢] だけであることを明示する. もし、tóng として何も示さないと、A) の tóng は [同] [仝] [衢] の全部に通ずる音であると疑問を持たれるおそれがあるため、全部系統を明示する方針をとる.

例㉕ [胡] [鬍] [衢] の処理について

これは見出語をふたつに分けて表示する.

[胡・鬍] hú

(I) [胡] えびす.

(II) [鬍] ひげ. → [胡(衢)]

[胡(衢)] hú

[~同儿 tòngr] ろじ. → [胡・鬍]

上例のように同一の簡体字にそれぞれ別の繁体字・異体字がつく例であるが、これをひとつにして〔胡・鬍(衛)〕とすると、あたかも〔鬍〕の異体字が〔衛〕であるように思われてしまい、つごうが悪いので、やむなく〔胡〕をふたつに分けて表示する。そして相互に参照符号を用いて導いておく。

(II) 見出語

- ① 簡体字・正体字であることを別に示さずそのまま用いる。引用例文も同様にする。

〔杂志〕 zázhi

〔钢铁〕 gāngtiě と見出語を出し、〔~挂 guà 帅〕と用例をつける。

- ② 共通文字の見出語

同じ字の見出語で、意味も発音も異なる場合は、別カードとする。

〔拔丝〕 bāsī …….

〔拔丝〕 bàsī …….

見出語の場合にも〔- 儿, - 子〕をつける。すなわち、〔病根〕などの〔儿〕〔子〕のつきうる見出語は、見出字の場合（基準 P.7~P.8 参照）と同じく解釈の先頭に〔- 儿, - 子〕を入れて処理する。

中国語に入った日本語あるいは日本語と同じ意味で使われている中国語などは、なるべく保存するよう努める。ただし、わざわざこの種の語をあさって載せるのでなく、従来あるカードを処理してゆく段階で出てくるものを捨てずに残しておくという程度にとどめる。

例 百货店 赤字 配给 场合 进度 速度 社会 条件 基本
方法 幸福 干部 重要 希望 动作 象征 など。

上例のように全く日本語と同じと思われるものでも、はたしてそれが中国でも同じように使われているのか、あるいは別の意味でつかわれているのかなどという疑念を解くためにも一応のせておく。ただし“料理店”や“折返”など問題のあるもの、吟味を要するものは気をつけて取り除く。

B) 表音について

(I) 字体

“漢語拼音方案”を採用し、ローマ字の字体はなるべく印刷体 (a b c d e f g h i j k l m n o p q r s t u v x y z) で書く。

(II) 声調

- ① 符号は直観式符号を採用する。

— 第一声（上平声）、/ 第二声（下平声）、∨ 第三声（上声）、\ 第四声（去声）

この符号は音節の主要母音の上につける。

〔一〕 yī 〔国〕 guó 〔脚〕 jiǎo 〔试〕 shì 〔接〕 jiē

〔远〕 yuǎn 〔永〕 yǒng 〔丢〕 diū 〔退〕 tuì 〔又〕 yòu

- ② 軽声について

詳細は2ページにかかげてある。

③ 声調変化

㉑ 第三声の字が続くときは、変化した結果ではなく、元来の声調を示しておく。

〔永远〕 yǒngyuǎn 〔好几个〕 hǎojiǐ · ge 〔洗脸水〕 xǐliǎnshuǐ

㉒ 〔一〕〔七〕〔八〕〔不〕や、〔快快(儿)地〕の第二字目の〔快〕などのように、前後の関係で特殊な声調変化をする字には、変化した結果の声調だけを示しておく。

〔一个〕 yí · ge 〔不是〕 búshì 〔渐渐(地)〕 jiànjiàn · dì 〔第八课〕 dìbā(bá)kè

④ 儿化音

詳細は3ページにかかげてある。

“異読詞整理表”について

第一批及び第二批の“異読詞整理表”は、ともに原案に全面的に従う。(第一批すなわち初稿については、1957年10月に辞典室で協議訂正した部分は、これを撤回し原案通り従うこととする)

C) 排列

(I) 見出字

① 見出字の排列は注音つづりのアルファベット順とし、さらに声調符号の第一声・第二声・第三声・第四声の順に排列する。

② 同音・同声調の字の排列は画数順によるが、同じ形の機構が備わっている字(とくに同一の音符と限定はしない)はまとめる。

㉑ 同じ形の機構によってまとめられた各グループの順序は、各グループのもっとも画数の少ない字の総画数によって、画数の少ない字のグループを前に排列する。たとえば yān の項の咽 烟 胭 では、因(6画)が共通の機構であるが、咽は総画数(9画)であり、奄(8画)のグループの後に排列する。

ただし、繁体字と共通の機構を有する字のグループは、その簡体字と同一グループとして筆画順に排列する。たとえば lú の項で卢 沪 炉 榼 臚 は同一グループとする。(榼と臚には簡体字はない)

③ いくつもの字音があるときは、その字音を全部かかげ、その排列はもっとも重要な字音(本来の字音やもっとも使用頻度の高い字音を先にし、その判定は“同音字典”と“漢語詞典”による)のところにすべて集中して示す。

〔着〕 zhuó zháo zhāo · zhe

(zháo zhāo · zhe の各該当カードにはそれぞれ ⇒zhuó B) ⇒zhuó C) ⇒zhuó D) としておく)

(II) 見出語

① 同一見出字内の見出語は、第2字目の順序(見出字と同じ)で排列する。2字目まで同一字であるときは第3字目の順序による。第3字目以下が同一字であるときもこれに準ずる。

② 二つ以上の発音がある場合はそれを並べて間を , で区切る。

〔早起〕 zǎo · qǐ , zǎo · qǐ

(アンダーライン____については 27 ページ E) (XIII) を参照のこと)

この場合、又音 符号は使わない。

ただし“儿化音の表記について”の②の方法で表示できるものはその方法による(4 ページ②参照)

- ③ [白] における bái と bó のように同一意味に対して二つの字音が通用している見出字の見出語は次のようにする。

[白] で始まる見出語を全部口語音の bái の方へ集め、bó は単に読音としてのみ存在することを示す。その見出語のなかで、特に bó の音がかなり使われているものだけ ㄅbó~ と注音を加えておく。

[白天] bái · tiān [白玉] báiyù , ㄅbó~

[白云观] báiyúnguàn , ㄅbó~

- ④ 意味の異なる 2 音がある見出字の見出語は、字解のすんだ後にそれぞれのグループに分けて排列する。

[行] xíng háng

A) xíng ①…… ②…… ③…

B) háng ①…… ②…… ③…… ④……

xíng

[行动] xíngdòng

[行礼] xínglǐ

háng

[行市] háng · shì

[行伍] hángwǔ

この例の中で、[行] は大活字、その次の xíng háng A) xíng B) háng および見出語の前の xíng háng はいずれも肉太活字を使用する。また、見出語前の xíng háng はそれぞれその前後のカードとは別個にカード 1 枚を専用して表示する。

- ⑤ gé jí と発音が二つあって、一方に語詞が少ない場合は見出字の注釈のところで全部処理してしまい、見出語として表示しない。

[革] gé jí

A) gé ……

B) jí ……

この場合、jí の見出語がない場合、すなわち、見出語は全部 gé であるので見出語の前につける gé jí の見出しカードはつけない。

- ⑥ 簡体字のうち、相互に無関係な字義の異なる繁体字に対して、一つの簡体字が用いられている場合は、それぞれ別に字解を施し、見出語も繁体字によって区別して排列する。

例④

[系・係・繫] xì jì

A) xì (I) [系] ①……②……

例⑥

[干·乾(乾·乾)·幹(幹)] gān gàn

A) gān (I) [干] ①……②……③……

<p>(II) [係] ①……②……③……</p> <p>(III) [繫] ①……②……③……</p> <p>B) jì [繫] ①……②……③……</p> <p>xì [系]</p> <p>[系○]</p> <p>[系○]</p> <p>[系○]</p> <p>[係]</p> <p>[系○]</p> <p>[系○]</p> <p>[系○]</p> <p>[繫]</p> <p>[系○]</p> <p>[系○]</p> <p>jì</p> <p>[系○]</p> <p>[系○]</p>	<p>(II) [乾] ①……②……</p> <p>B) gàn [幹] ①……②……</p> <p>gān [干]</p> <p>[干○]</p> <p>[乾]</p> <p>[干○]</p> <p>[干○]</p> <p>[干○]</p> <p>gàn</p> <p>[干○]</p> <p>[干○]</p> <p>[干○]</p>
---	--

例◎

〔复〕のうちの〔复函〕の処置について。

〔复・復・複・覆（襍）〕 fù

(I) 〔復〕 ①…… ⑤ = [(III) 覆④] 返信。

(II) 〔複〕

(III) 〔覆（襍）〕 ①…… ④ ⇒ [(I) 復⑤]

……

〔復〕

〔复○〕

〔复○〕

〔复函〕 fùhán = 〔复信〕〔复书〕〔复文〕 返信。 → 〔字解 (I) ⑤〕

〔复○〕

〔复○〕

〔复信〕 fùxìn ⇒ 〔复函〕

┆

〔複〕

┆

〔覆〕

┆

上例のように〔復〕〔覆〕がかさなり合い、〔复函〕はもと〔覆函〕〔復函〕とも書かれたが、〔復〕の項と〔覆〕の項の双方にこの見出語を出すのは繁雑であるので、〔復〕の方にだけ表示し、〔覆〕の方には出さない。そして〔覆〕と〔復〕が通用されたことは見出字の方で解説する。

なお〔覆〕は〔覆〕だけの異体字で、その前の〔複〕〔復〕には関係がないわけであるが、その関係のしかたは字解の(Ⅲ)を見るとわかるので〔复・復・複・覆(覆)〕とならべて表示する。

- ⑥ 〔儿〕字をとまなう見出語は、表記した発音順にしないで、元来の字音に還元して、それに〔儿〕が独立して一字加わったことにして排列する。たとえば、〔八股儿〕bāgǔér は bā gǔ ér だということにして〔八卦〕bāguà の前に排列する。
- ⑦ 〔- 不了〕〔- 得了〕などは見出語としてとりあげ、全体的な説明を施すが、その上にまた実際の動詞・形容詞を伴った形〔办不了〕〔吃不得〕などをも見出語として適宜にのせ、用例を施す。本来ならば〔- 不了〕があるので〔办不了〕は不要なのであるが、この種のよく使われる語、特別の意味が出てくる語、意味合いがすこしずつ違ってくる語などは適宜に見出語としてのせるようにする。軽声をもつ見出語は、その軽声字をもとの声調の変化したものと考え、その声調のすぐ後に排列する。たとえば、〔孙子〕sūn・zi の〔子〕は z i の軽声化したものと考え、三声の z i のすぐ後に排列し、〔孙子〕sūnz i 〔孙子〕sūn・zi とする。

(Ⅲ) 見出語で省略してもよい字のある場合は、その字を() でかこむ。その取り扱いは次のようにする。

- ① 最後の字が省略できるときはカード1枚でよい。排列は全文字による。

〔萨(尔)兰〕sà'ěr(lán) 〔药方(子)〕yàofāng(・zi)

(兰)(子)も含めて排列する。

- ② 後から2字目以前に省略できる字があるときは、カードを2枚作っておく。省略した方のカードは全文字を書いたカードの方に ⇒ で導いておく。

〔碳(极)弧灯〕tàn(jì)húdēng ……

〔碳弧灯〕tàn hú dēng ⇒ 〔碳(极)弧灯〕

- ③ 上記②の場合、省略できる字のあるカード群をさらに他のカードへ集中する場合は次のようにする。

〔汞溴红〕gǒngxiùhóng = 〔红(溴)汞〕① ……

〔红汞〕hónggǒng ⇒ 〔汞溴红〕

〔红(溴)汞〕hóng(xiù)gǒng ⇒ 〔汞溴红〕

(Ⅳ) 見出語の集中について

- ① 同じ意味の見出語群は、ある中心の語に集中するが、そのややこしい場合の処理のしかたについて

例④

〔猜拳〕cāiquán ⇒ 〔划 huá 拳〕“huà B)”を見よ。

上例は〔猜拳〕が〔划拳〕と同じで、そこへ行けば説明があることを示すが、〔划〕huá は実は huà が中心の音で、そこに行かなければ〔划拳〕の注釈は出てこない。それで ⇒ としたあと

に続けて“ ”を見よ. と表示し、直接 huà へ行ってもらよう指示する.

例㉔

〔操琴] cāoqín ⇒ 〔彈 tán 琴] “dàn B)”を見よ.

〔疙瘩] gē · da

……

→ 〔圪 gē 答] 〔咯 gē 嚏] “圪 qī B)” “咯 kǎ B)”を見よ.

もう一つの場合、

→ 〔圪 gē 答]; 〔咯 gē 嚏] “kǎ B)”を見よ.

; を打つのは、そのあとにつづく 〔咯 gē 嚏] 以下と無関係であるという意味を持つ. そして
“kǎ B)” は 〔咯 gē 嚏] にだけ関係することをあらわす.

以上の諸点に関連して、⇒ あるいは → を用いて導く場合、2 段飛びを避けるための注音方法は次のようにする.

例㉕

〔咯] gē ⇒ kǎ B)

〔扒拉] bā · lā ⇒ 〔拔 bā 拉] “bō”を見よ.

〔仵] yù ⇒ gé B)

〔疙瘩] gē · da

以上のように、⇒ kǎ B) “bō”を見よ. などのように音を指示するだけで、ここに字は入れない. 例えば 〔咯] gē で kǎ の前に 〔咯] の字を入れなくても、まちがわれるおそれがないと考えられるからである.

例㉖

〔侧理纸] cè lǐ zhǐ = 〔苔 tái 笺] ……

以上のように⇒で集中した場合、〔苔] は一声 tāi が代表音であるが、いたしかたなく 〔苔] tāi と表示しない. ㉔ ㉕ の各項で “kǎ B)” を見よ. などとしたような処理法をとらない. すなわち ⇒ と = の場合を分けて考え、= [] の場合はすぐ次に説明が来るため、とくに代表音を示さない.

②同じ意味を表す語で、形態上さまざまな言いかえのあるものについては、次のように処理する.

例 1. 〔阿司匹林] àsīpīn アスピリン: 〔阿斯 sī 匹林] 〔阿斯比 bī 林] 〔阿斯匹灵 líng]

〔阿士 shì 必林] 〔阿士匹林] ともいう.

以上のように字解 (アスピリン) のあとに類似語を並べ、[] [] ともいう. と書いておく. これらのカードは独立させて見出語として表示しない.

例 2. 〔奥林匹克] àolínpǐkè オリンピック: 〔奥林匹 pǐ 克] 〔奥林庇 bì 克] 〔奥林辟 pì 克]

〔亚 yà 林比克] 〔欧 ōu 林比克] 〔奥林比亚赛 sài 会] 〔世界运动大会] 〔世运 (大) 会] ともいう.

上例で 〔亚林匹克] 〔世运 (大) 会] などは 1 字目の発音が異なるので、独立した見出語として表示する. すなわち、1 字目が同じならば、見出語として掲げなくてもよいか、1 字目が違う場合は見出語として掲げることにする.

〔亚林比克] yàlínpǐkè ⇒ 〔奥 ào 林比克]

〔欧林比克] ōulínbǐkè ⇒ 〔奥 ào 林比克]

などとする. これは集中したカードの方には [] [] ともいう. と書いてあって、= [] [] として処理されていないが、このような場合も ⇒ を使用することをみとめる. つま

り = ⇒ の使用法に幅をもたせたわけである。ただし、注意されることは、このように処理することは上述のような特別の場合にかぎり、基本的には = ⇒ を使用して処理する。

(V) 重量形について

重量により意味や発音が変化するもの、また比較的常用されるものなどは見出語として出す。

(VI) 形容詞・副詞の詞尾〔的〕〔地〕の処理について

①形容詞にも副詞にも用いられる詞は、その詞尾を取り去って見出語にかかげる。

〔黑忽忽〕hēihūhū (局部的・平面的に) 黒い。暗い。〔夜空黒, 阴上来一片~の浓云〕夜空に一面のまっくろな雲がかぶさってきた。

〔黑拉拉〕黒ずんでいる。〔傍晚远远望见了~的一片树林子〕夕方はるかに黒ずんだひとつの林が見えた。

上例のように見出語には〔的〕あるいは〔地〕をつけず、用例中に実字で示す。すなわち、この種の詞は用例を明示してその使われかたを示す。

②〔儿〕字をとまなう副詞の見出語は次のように処理する。

〔快快(儿)(地)〕kuàikuài·di, kuàikuāi·di, kuàikuàr(·di), kuàikuār(·di)

上例のように〔儿〕および〔地〕をカッコに入れて見出語にかかげる。しかしカッコがふたつでどう読むのかまぎらわしく、誤解されるおそれもあるので、発音の方で調整し、ひとつひとつ読みうる発音のすべてを表示する。

③〔严重〕yánzhòng 嚴格(な. に). きびしい(しく)

〔滔滔〕tāotāo 水がさかんに流れるさま。〔水~地流〕水がとうとうと流れる。〔~的水势〕とうとうとした水のいきおい。

上例のように形容詞・形容動詞としてもまた副詞にも用いられる詞については従来のように(な.

に)あるいはしい(しく)という方法で注釈する(参照 19 ページ③)。また〔滔滔〕のように用例には〔的〕

〔地〕を実字で示し、それぞれの使われかたをひとつひとつ例示する。

④副詞の〔好好(儿)(地)〕、形容詞の〔好好(儿)(的)〕はそれぞれ別々に見出語として表示する。

これは〔好好 hǎo〕と〔好好儿 hǎor 地〕などのように用いかたにより、また発音によっていくらかずつ意味がちがってくる。それで読みうる発音のすべてにひとつずつ用例を添え、そのニュアンスのちがいを明示し、しかもそれを全部実字で表し、利用者に十分理解してもらうようにつとめる。

副詞の例。

〔好好(儿)(地)〕hǎohǎo(·di), hǎohǎo·di, hǎohǎor(·di), hǎohǎor(·di)

よつく。ちゃんと。きちんと。とっくり。念入りに。じゅうぶんに。〔有话好好 hǎo 说, 别急斥白脸的〕はなしがあったらちゃんと言いなさい、そんなにせきこまないで。〔你好好地脱了衣服坐着吃酒〕〔儒〕まあゆっくり着物でもぬいで腰かけて酒を飲んだまえ。〔说得好好地, 怎么又变卦了?〕立派にはなしがついていたのに、どうしてまた急に変更になったのだろう。

〔你好好儿等着, 我一会儿就回来〕おりこうに待っていらっしやい、すぐもどって来ますからね。〔你好好儿收拾屋子〕おまえはきちんと部屋をかたづけなさい。〔一笔一画好好儿地写

清楚] 一点一点画をていねいにはっきり書く。[放了假咱们好好地玩几天] 休みになったら、ぼくら思う存分何日か遊ぼう。

上例のようにすべてを表示し、訳語を加え、用例はひとつひとつ実字であらわし、懇切にとりあつかう（なお2番目は儒林外史の用例で〔的〕を〔地〕になおさず原文のまま採用する。下の㊦参照）

形容詞の例。

〔好好（儿）（的）〕 hǎohǎo(・de) , hǎohāo・de , hǎohǎor(hāor)・de

よい、たいへんよい。立派である。申し分ない。これ以上はない。問題ない。[他真是个好爷爷] あの人はほんとうに好々爺（こうこうや）だ。[好好的一条道你为什么不走?] 申し分のない道なのに君はどうして通らないのか。[好好的你干么又伤心?] 問題はないはずなのにどうしてまた悲しんでいるのか。[好好儿的一笔买卖叫他给搅散了] ほくほくのうまい商売をあいづにかきまわされてふいにされてしまった。[好好儿的东西别糟踏] けっこうなよい品物をだめにしてはいけない。

上例のように形容詞としての〔好好（儿）（的）〕は hǎohǎor , hǎohāor という言い方はないので、そこをまぎれないように表示する。

㊦この副詞詞尾の〔地〕、形容詞詞尾の〔的〕および〔底〕は、各種文献から用例をとって、その出典をあげる場合には、原文のまま採用する。〔的〕を〔地〕になおすべき例でもそのまま改めずに置く。すなわち、その作家の習癖・作風などを忠実に伝えようとする意図からこの種の改変は行わない。ほかに同じような例として〔么〕〔吗〕〔吧〕〔罢〕なども原文のままをとり、書きかえない。ただし簡体字・異体字に関する書きかえは完全に行う。

○出典をあげない普通の例の場合は、上述のような書きかえはすべて完全に行う。

(VII) ローマ字をそのまま見出語のなかに使っている場合、表音の部分は、そのままそのローマ字を書き、排列はアルファベット順とする。

〔K 金〕 Kjīn …… (kā の発音の見出字の前に置く)

〔三 K 党〕 sānKdǎng …… (〔三〕の見出語の中の kā の前に置く)

D) 解説について

(I) 分類

- ① 単字では語にならない見出字は、その字を使ってできた語を用いて説明する。この場合、㉑その見出字のカードの注釈として取り扱う場合と、㉒その見出字の見出語として取り扱う場合、㉓他の見出字あるいは見出語の注釈に → で導いてすませる場合の三つがある。

例㉑の㉑ 〔玻〕 bō 〔～璃・í〕 ガラス、

例㉑の㉒ 〔样〕 bàn 〔～子〕 まき、

例㉑ 〔荸〕 bí → 〔荸荠〕

〔荸荠〕 bí・qí = 〔地 dì 栗〕〔地梨〕 ㊦水慈姑（みずぐわい）：ふつうのくわいと異なって、甘味が多く生食される。→ 〔慈 cǐ 姑〕

例㉑の㉑ 〔襪〕・de → 〔襪 lē 襪〕

例㉔の㉔ [襪]・de [襪 lē~] 衣服がだぶだぶで見苦しい。

㉔ 例㉔の㉔の方法をとる場合は、注釈が簡単にすむ場合である。

以上、例㉔㉕㉖を通じてわかるように、→ を用いて他の字・語へ導く場合、[] の中はすべて実字を用いる。また、上述の原則によって → [○○] とした場合に、それが中心語でない場合は、中心語に直接 → で導く。

[盤] bān → [班 bān 猫]

[班猫] bānmāo = [盤螯 bānmāo] 罎はんみょう。

㉔ [盤螯] は他の場所に見出語として出ることはないので全部注音しておく。

㉔ 二字目以後の“生僻字”について、見出語の二字目以後に“生僻字”が出てきて、その字が“同音字典”、“漢語詞典”にもない場合、それらの“生僻字”は一律に見出字としてかかげることとする。この場合、[葡] pú → [葡萄] とするものと、見出字に注釈を加えるものがある。

㉔ 見出字・見出語に幾とおりもの訳語があるときは、意味の系統が異なるごとに、①②③……の記号を用いて分類する。さらにその分類内で細分を必要とする場合は、小文字の㉔㉕㉖……の記号を用いて分類する。

[波] の字の用例として [秋波] を用いる場合、[秋波] には2つの意味がありこれを㉔㉕の記号を使って書きわける。(㉔㉕)は見出字の字解または見出語にいくつかの意味がある場合に用いられるものであるが、[秋波] の場合などには特別に用いることとする)

[波] bō ①…… ②…… ③目つき。まなざし。[秋~] ㉔秋の波。㉕女のこびる目つき。
③……

㉔ 訳語は一つであるが、語義が二つ以上に分かれる場合は、訳語の後を一字分あけて、①……
②…… とする。

[欧耳] ōuěr オール ore ①デンマーク・スウェーデンの補助貨幣…… ②ノルウェーの補助貨幣 ([1 克 kè 朗] が [100~] にあたる)

㉔ 上例の () 内は ([1 克朗] が 100 オールにあたる) としてもよい。しかし ~ のかわりに実字をあてることはしない。

㉔ 注釈中にいくつかの事項を並列して説明する場合は次のようにする。

上記③の例のようにしないで、. の後にすぐ①②③を持つてくる。

[三大作风] sāndàzuòfēng 中国共産党政治の三つの大きなやりかた。すなわち、①理論と実践の結合、②人民大衆との緊密な連携、③批判と自己批判。

㉔ 成語・諺語など長い見出語のとりあつかいについて

㉔ 成語・諺語などで見出語が長くなる場合でもそれらはつとめて採用するようにする。

㉔ またその成語・諺語をどこからでも引けるようつとめて親切にとりあつかう。

[三天打鱼两天晒网] は [三] [两] [打鱼] [晒网] など各項にこの成語がわかるよう表示しておく。

㉔ なお“成語小詞典”にあるくらいの成語はどしどし採用する。

㉔ 事典的説明は、原則として、長くてカード一枚程度とする。もし、どうしても長くなる場合は、

例外として、2枚以上にわたるものをみとめるが、なるべくカード2枚以内におさめる。

(II) 日本語

- ① 日本文は、現代かなづかい及び“内閣告示による送りかなのつけ方”によって書き表すが、当用漢字の方は必ずしも国語審議会の方針に従わない。すなわち、当用漢字以外の字も適宜使用することとし、その水準は大体において高校卒程度の者の漢字知識ないし新聞雑誌の漢字使用の程度を目安とする。たとえば、

傲慢 義侠 馴れる 来賓 螺旋 藪

など、ひどくむずかしいものでなければ使ってよいことにする。

- ②④ 訳文中、日本語の漢字・熟語で、むずかしい字や、当用漢字以外の字

ふりがなをつけるときは小文字ひらがなを用い、左から右へ横書き二段にする。なお、日本固有の読み方はひらがなを用い、外来語はかたかなを用いる。

遊説(ゆうざい) 麻雀(マージャン) 移住(いじゅう) 我(が)

玉(ぎょく) 胞衣(えな) 不俱(ぐ) 戴天 玉石混淆(こう)

- ③ 日本語の代名詞のうち、漢字で書いてよいもの、ひらがなにすべきものの区別は以下のようである。

漢字でよいもの 彼女 何

ひらがなが本当であるが漢字でもよいもの わたくし(私) きみ(君) かれ(彼)

われ(我) われわれ(我々) ぼく(僕)

必ずひらがなで漢字ではいけないもの だれ(×誰) あなた(×貴女、×貴方)

おれ(×俺)

- ④ 当用漢字補正案のうち、②および③の項の漢字は全部採用する。

親族の称呼について説明する場合は、以下の術語を用いる。ただし、やむをえない場合にかぎり使用することにする。

親族称呼

尊称 卑称 对他尊称 对他卑称

自称 对称(呼びかけ) 他称

学称

なお、これらの術語をほとんど用いずに処理された注釈の1例を次に掲げる。

[姑] gū

①… ②… ③ [~母 mǔ] [~妈 mā] [~娘 niáng] [~姑・gū] 父の姉妹に当たる伯(叔)母：呼びかけには[~姑！]あるいは姉妹内の長幼の順序を示して[三~](3番目のおばさん!)のようにつぶ。 → [小 xi ā o 姑儿] [小娘儿]

- ③ 用い方により二つの品詞にまたがって使用される語を注釈する場合は、()を用いて一回の注釈ですませるようにする。

[关怀] guānhuái 関心(をもつ)。思いやり(やる)。配慮(する)

[严重] yánzhòng きびしい(しく)。深刻(な。に)

- ④ 解説の問題について

④形容詞の訳語は主として終止形でとめるようにする。黒い。暗い。黒ずんでいる。美しい。きれい。などと訳しておく。従来不用意に訳していた、まっくろな、黒ずんだ、あるいは黒いさま、黒ずんだ様子などの訳語は使わない。15 ページ C) (VI) に見られるように、〔黒忽忽の浓云〕〔黑拉拉的一片树林子〕など文中に用いられ修飾関係をもってはじめてまっくろな、黒ずんだという訳語をあてはめることができるものである。以後、この点をはっきり意識して注釈するよう努力する。

⑤……のさま。……のようすという言い方は全然用いないわけではない。上例〔滔滔〕の例など、ほかに文語的な詞にはしばしば用いられる。

〔蔼蔼〕 āi ai ①盛んなさま。②(樹木の) 生い茂るさま。

〔蔼然〕 āi rán ①うるおいのあるさま。②なごやかな(に)

ただし、〔黑拉拉〕のように黒ずんでいるさまと言わなくても黒ずんでいるというだけでわかるときは、なるべくこの終止形でとめる訳語をえらぶようにする。

⑥日本語でする解説には文語脈を用いないことは従来から決められたとおりであるが、とくに……ぬ(理解せぬ。言わぬなど)は用いないで、……ない。……しない。と標準的な言い方を用いて訳すように努める。

⑦普通の解説の文章は大筋として……である。……です(対人関係)……であります(同前の敬語)……した。などを用いる。もとより用例のニュアンスにより……だ。……だった。……であった。……しました。などを随時用いることは言うまでもない。

⑧訳文の時相について

例文のなかで過去にも現在にも訳せるものはなるべく現在形に訳しておく。例文がはっきり過去をあらわしているものは、もとより過去形に訳すが、すべて実情に応じて訳すようにつとめる。訳文は文学的に飛躍したり、意識することをさげ、なるべく逐語訳をほどこし、原文を忠実に訳すよう努力する。詩・詞・尺牘などなるべくそれに似せて、原文の味を生かすよう努力する。

(III) 中国語

①注釈・解説文中に中国語を用いる場合、〔 〕でくくって中国語であることを示す。

例 〔三浣〕の項の解説中に、……、〔上浣〕〔中浣〕〔下浣〕をいう。

②解説文中の中国語はなるべく最初の文字に注音し、すぐ後に()で日本語の簡単な説明を加えておく。

例 〔旗 qí 杆〕(はたざお)や〔旒 liú〕(はたあし)など。……

③引用文・例文の中にむずかしい字音や、特殊な字音があれば、その字のすぐ後に注音しておく。注音は()でかこまない。

例 〔社会各方面对于少 shào 年儿 ér 童的～和教育比以往 wǎng 更为重 zhòng 视〕
(〔关怀〕の項の引例)

(IV) 外国語

①外国語にはなるべく原名つづりを入れておく。日本のかな書きを先にし、原名つづりを後にする。その場合、固有名詞は大文字で始め、おの第二字目以下は小文字とし、また普通名詞は全

部小文字を用いる。すべて（ ）でかこまない。

〔伊朗〕 yī lǎ ng イラン Iran.

〔底片〕 dǐ piàn 写真の原板。ネガ（ネガチブ）negative.

②外国語を入れたときの注釈の仕方

㊸外国名の後に日本語の他の訳語を続けて書くときは間を . で区切る。

モノタイプ monotype. 自動植字機.

㊹日本語の訳語が説明的な訳語であるときは（ ）に入れる。

モノタイプ monotype. (自動鑄造組版機)

③同一語義の外国語が二つ以上あってそれを示すときは間を , で区切って並べる。

組穿孔機. 連成穿孔機. gang drill , drilling machine

㊺すべて外国語が最後にきたときはピリオドは打たない。

(V) 学名

①動物・植物名は誤解をさけるため、たしかなよりどころを持つものだけ選んで学名を入れる。

〔石竹〕 shízhú 〔植〕せきちく. からなでしこ Dianthus chinensisL.

㊻〔石竹〕は“辞海”958頁にあり、“日本植物図鑑”583頁、“広州植物志”129頁にすべて同じ学名を入れているため、たしかなものとみて学名を入れる。

なお、中国名および学名だけわかっていて、日本名のないもの（見当たらないもの）には、ひとまず学名だけを入れたカードを取っておく。

〔玉簪花〕 yùzānhuā 〔植〕Polianthes tuberosa L.

②化学記号などの記号の取り扱いは下例のようにする。

バリウム (Ba, 化学元素名)

(VI) 数字

アラビア数字を用いる。ただし万以上の単位には万・億・兆などの漢字を用いる。なお、熟語中の数字は漢字を用いる。

6億3,000万人	1個	3か月
三日月	四天王	七顛八倒

(VII) 同義語・類似語

①同義語・類似語は代表的な語に集中して注釈を詳しく施し、それ以外の語は代表的な語のところに導いておく。

㊼名詞以外ではその代表的な詞の選定は慎重にすること。

②同義・類似語として集められた語が排列するとすぐ連続して並ぶ場合でもそれぞれカードを作っておくが、その場合、集中されるカードには ⇒ を用いず、同上. あるいは同下. の符号を用いて次のように示しておく。

〔三鞭酒〕 sānbīnjiǔ = 〔三宾酒〕 シャンペン酒.

〔三宾酒〕 sānbīnjiǔ 同上.

③一つの見出語に集められる語が多いとき、その語と同じ語で始まらない語群は下記のようにして重複を避ける。

例 [維生素] wéishēngsù の場合、

㉑ 注釈中に書きこむ場合。

㉑ …… [維生素 B₂] ⇒ [核 hé 黄素] [維生素 B₆] [盐 yán 酸吡多醇] ビタミン B₆ [……] ……

㉒ …… [維生素] ビタミン B₂ → [核 hé 黄素] [維生素 B₆] [盐 yán 酸吡多醇] ビタミン B₆ [……] ……

㉓ カードの下方に参照事項として書く場合。

ビタミン B₂ → [核 hé 黄素] ビタミン H → [促 cù 生素]

㉔ 以上のように二つ以上並列するときは間を1字分あけて次のを書く。

(VIII) 段落

① 訳語と次の用例の間は1字分あける。

② 訳語中の①と②の間や、㉑と㉒の間などは1字分あける。

③ 用例の訳の最後と次の用例の初めとの間は1字分あける。

(IX) 並列

① [] でくくった語を並列する場合は、並列符号 ・ は用いない、すなわち、

[○○]・[○○]・[○○] あるいは [○○・○○・○○] などとはしない。

[票据] piàojù ① [汇 huì 票] [期 qī 票] [本 běn 票] [庄 zhuāng 票] [支 zhī 票] など
手形・小切手類をいう。…… ②……

② 注釈の中でいくつものものを並列して説明する場合、簡単なものは並列にしてもよい。

[三大文献] sāndàwénxiàn 1949年、中国人民政治協商会議が採択した三つの重要な法案、

[人 rén 民政协共同纲领] [人民政协组织法] および [人民政府组织法] をいう。

㉕㉑ 中国人民政治協商会議は中国語と日本語訳名が同じである。この場合には、注釈の都合で日本語として取り扱っても、中国語として [] に入れて取り扱ってもよい。

㉖ 上例のような場合、……重要な法案。で切って、以下の三つの言葉を → [] [] [] としてもよい。ただし、→ [○○・○○・○○] としない。

(X) 姓・複姓。

用語を姓。と複姓。の二つにする。

[祁] qí ① [] 盛大なようす。② 姓。

[诸葛] zhūgé 複姓。

㉗ “国語辞典”・“同音字典”にのせられている姓・複姓は一律に全部採用しておき除去しない。

(XI) 人名用字。

姓に対して常用度の低い字で、もっぱら人名に使われるものを示す用語として人名用字を設ける。

- 〔再加上〕の項で = 〔又搭着〕. ← これは打たない.
 ③ () が文末にきた場合は打たない. ← きゃら (香の名).
 きびしい (しく). 深刻 (な. に).
 ↑ この場合の黒点は前の訳語と後の訳語を区別するために入れる.
- ④ 日本語の () 内の文末の黒点はつけない.
- ⑤ ・ を真中の高さに打つ場合は次の二通りである.
- ① 軽声音節の注音つづりの前に用いる.
 〔孩子〕 hái · zi 〔翻译〕 fāng · yì
- ② 日本語の名詞・代名詞を並列する場合に用いる.
 中国の地名・人名の書き方. 疑問・質問の内容.

(II) , コンマ

- ① 日本語による注釈・例文中に、くぎり符号“ ”の代りに用いる。
 中国の場合は、一般に……
- ② 見出語に二つ以上の発音がある場合、その各注音つづりの間に用いる。
 〔剥削〕 bāoxiāo, 〔〕 bōxuē
 なお次のコロン符号の注を参照のこと。
- ③ 実際上 , で区切って用いられることばを見出語とするときはありのままの形で採る。
 〔只许州官放火, 不许百姓点灯〕
 次の例のように成語・熟語辞典などで変則的な標点を施してあることばは実用面のありのままの形に引き直して採用する。
 × 〔神不知, 鬼不觉〕 不採用
 ○ 〔神不知鬼不觉〕 採用

(III) : コロン

- ① “すなわち”の意味をあらわしたり、あるいは総括的説明を加えたりするのに用いる。
- ② 外国語の原音つづりをつける場合は () に入れないでそのまま続けて書く。
 オイペン **Eupen** : ベルギー・ドイツ国境地方、現在はベルギー領。
 ユーラシア **Eurasia** 大陸 : ヨーロッパ大陸と……
- ③ , : 符号の使い分けは、説明文が長い場合は : を用い、短い場合は , を用いることとし、次のように処理する。
- 例① 〔欧拉〕 ōula
 ① オイラー L. Euler, 1707~83, 数学者。
 ② オイラー L. Euler, 1707~83 : スイスの数学者・物理学者で変文法の創始者。……
- 例② 〔欧 (姆)〕 ōu(mu)
 ① オーム ohm, 電気抵抗の単位。
 ② オーム ohm : 電気抵抗の単位, 1 ボルトの電位差……
 ③ オーム ohm, 電気抵抗の単位 : 1 ボルトの電位差により……

(IV) - ハイフン

- ① [言差语错] yánchā - y ū cuò
 ② [椅] y ī ① [-子] いす。
 [刀] dāo [-儿, -子] [圖]把 bǎ, 口 kǒu] 刀. ナイフ. 刃物。
 ③ [-不了] [-得了] など、前の一字を省略する場合は、[-] (短い横棒) を用い、……や。などは用いない。

(V) ? 疑問符 ! 感嘆符

原則として日本文の訳文中には用いない。ただし、疑問符は肯定文問いかけの場合には用いる。
 行くでしょう？

(VI) 標点符号

例文引用の場合、例文につけられた符号は原文のまま引用する。ただし、引用符はすべて“ ”を用い、原文に「 」を用いてある場合も“ ”になおして採録する。

[他哭丧着脸说：“妈呀！这——我这毛病，呃，近来越发凶了！”]

[寄款人的姓名、住址] 送金人の氏名・住所。

- ㊤上例のように、中国語の、 は日本語の訳文では・にする。23 ページ E) (I) ㊤㊦参照。

(VII) () 括弧

- ①見出語の中で省略できる字は () でかこむ。
 [药房 (子)] yàofāng(· zǐ)
- ②引用例文中に言いかえのできる字句がある場合、その後に言いかえの字句を () にかこんで示す。
 [行是行，可 (可是) 不大合式]
- ㊤見出語にはこの方法は用いない。すなわち [三大纪 (规) 律] は誤り、二枚のカードに分ける。なおこの符号については 14 ページ (III) を参照のこと。
- ③注釈中に用い、(または、あるいは) の意味に用いる。
 きれいに (すっきり) 取られる。 きびしい (しく)。 深刻 (な。に)
- ④注釈中に付帯的説明を加える場合は、その部分を () でかこんで区別する。
 例 [妻子儿女] の注釈の後で、([儿] は男の子、[女] は女の子を指す)
 [定額] dìng' é 定められた金額・人員 (→ [定员] [名額])・物の数量 (→ [定量])
 ……
- ⑤用例に出典を表示する場合は出典名を () でかこむ。
 出典をあげる場合は、その篇名・回数 (章数) などを () でかこんで明示する。
 [乱子] の例文で、
 [这样的作法，没有不出～的] (毛・矛 3)
- ㊤元曲選などで用例の出典がどこから出たかわからないものは、やむなくその用例を除く。

見出語があっても用例がなければわからないようなものは、これもやむなく見出語ごと全部のぞく。

はっきり意味のつかめない例は放置しないで処分する。

用例がわからなくても、見出語の解釈だけでも意味が通ずる場合は、「古白」 として残しておく。

〔赤紫的〕 chī j i n · de 「古白」 まったく、本当に。

⑥ふりがなに用いる。

例 振付（ふりつけ） 腐食（ふしょく）

⑦訳文中の中国語に簡単な説明をつける場合に用いる。

例 〔得 dǎi〕 は 〔逮 dǎi〕（捕らえる）に通じて用いられる。

(VIII) ～ 省略符号

①見出字あるいは見出語を例文中に用いる場合。

例 〔责成〕の項の例文中、〔～在我〕とするなど。

②例文中にその見出語の反復形があるときは次のように処理する。

見出字〔看〕の例文中に〔……看看……〕があるとき 〔……～～……〕

〃 〔……看一看……〕 〃 〔……～一～……〕

見出語〔打听〕の例文中に〔拜托您给打听打听〕とある場合〔拜托您给～～〕

③見出語が2字以上の場合でも1個の ～ であらわす。

④誤解を生ずるおそれのあるときは、この省略符号を用いなくて、実字をあてる。

例 〔吃饭〕の例文中に〔～了～了〕とせず〔吃了饭了〕とするなど。

⑤同義・類似語のある場合の省略符号は、その見出語と同義・類似語が例文中で完全に代替できる場合にのみ用い、そのうちの1語だけがその例文中に用いられる場合は実字をあてる。

〔轮班〕 lún bān = 〔轮流着〕〔替 ti 换着〕……〔轮班看守〕……, [……]

〔取钱〕 qǔ qián = 〔取款〕〔拿 ná 钱〕〔提 tí 存〕……〔拿支票〕……, [……]

⑥見出語に注音するさいに、省略できる字が連続している場合は、字数に関係なく ～ の符号ひとつですませる。ただし、間に省略できない字があるときはひとつひとつ書く。

〔白云观〕 báiyúnguān , ☒bó～

〔百战百胜〕 bǎi zhàn bǎi shèng , ☒bó～ bó～

なお、7 ページ A) (I) ③を参照のこと。

(IX) []

見出字・見出語や例文・注釈中の中国語の語・成語には、すべて [] を用いて、中国語であることを示す。なお、これに付随する記号、A) B) (I) (II) ①② ㉔㉕なども便宜的に [] に入れることにする。

例 〔阖・闾〕 hé = 〔合 hé A) (II)〕……

〔份〕 fèn ⇒ 〔分 fēn B) ②〕

〔乾〕 qián ……→ 〔干 gān A) (II)〕

(X) ⇒ イコール矢印

その項に説明があることを示す。同義・類似語群中、代表的な語のところに集中して注釈をくわしくほどこし、それ以外の語は ⇒ を用いて解説のある場所を示す。

例〔七夕〕にくわしく注釈しておき、〔巧节〕〔七巧〕〔七月七〕の各項には、
〔巧节〕 qǐ ā ojié ⇒ 〔七 qī 夕〕

(XI) → 参照符号

- ①その項をも参照してもらいたいことを示す。関連のあることばにはすべてこの符号を用いる。
②関連事項や派生事項の語を一か所にまとめて説明する方が都合がよい場合は、まとめられた語のカードは、まとめた語のカードへ → で導いておく。この場合は同義・類義語でないの
⇒ は用いない。

〔案奉〕 ànfèng …… 〔案准〕 …… 〔案据〕 ……

〔案据〕 ànjù → 〔案奉〕

〔案准〕 ànzhǔn → 〔案奉〕

(XII) = 等符号

前項と後項が等しいことを示す。

〔七夕〕 qīxī = 〔七月七〕〔巧 qǐ ā o 节〕〔七巧〕 ……

〔竟〕 jìng ① …… ② = 〔到 dào 底〕 …… ③ ……

(XIII) ↔ 対立符

対立語（反対語・対象語）を示す。

〔高〕 gāo …… ↔ 〔矮 ā i〕〔低 dī〕

〔福〕 fú …… ↔ 〔祸 huò〕

(XIV) _____ アンダーライン

- ①習慣上、特別に発音される見出語の場合、その特殊な音の下に線を引いておく。

〔天台〕 tiāntāi

〔曲沃〕 qūwù

- ②地名などの特殊な発音でも“同音字典”に記載されている場合は_____を引かない。

- ② ㊦㊦などの表示がある場合は特殊な字音であっても下に横線を引かない。

〔咧咧〕 lié · lie ㊦ ……

〔纂集〕 bìlì , ㊦ biě · la

これらの例のように、lié、biě、laなどと下に横線を引かない。

- ③次のような特殊な場合には _____ を用いる。

- ③ a 3声が連続し、2字目が軽声となる場合のうち、特殊な場合。

正常な例 〔把柄〕 bǎ · bǐng

〔把〕が2声になり、〔柄〕が軽声の場合。このときは_____は必要でない。

特殊な例 〔撒耻〕 piěchi

〔撇〕を3声の原音のまま読ませ、〔耻〕を軽く読ませたい場合はこのこのように注音する。もし上例と同じように piěchǐ と注音すると、piě を2声に変えて読まれてしまうので piě・chǐ とする。すなわち ・chǐ として下に線を引くのは発音上の誤解をさけるためである。

㊦〔四适] sì・dì

この場合、〔适〕はほかに dì と発音される例が見あたらず、その上、この例でも軽声であるため、その元来の声調を知ることができない。そのため、あたかも特殊軽声字と同じような注音をするよりほかに方法がないので誤解を生じないように____を用いておく。

④引用例文中にこの符号を用いてある場合はそのまま採録する。

(XV) …… (点6コ)

①動詞・助動詞・介詞など、注釈にあたって、他の語と関連させなくては注釈しにくいものは、関連語のかわりに、…… を用いて注釈し、その後で用例をつける。

例 〔不是……就是……〕の項で、……でなければ……である。……か……である。

②引用例文が長くて中略する場合にも用いる。

F) 略号

(I) 同前. 同上. 同下.

注釈中、同一カード内のすぐ前の注釈と同一であるときは 同前. とする。見出語がすぐ前の見出語と同義であるときは 同上. とし、すぐ後と同義のときは 同下. とする。後に . を打つ。

例 〔钢・鋼] gāng はがね. 鋼鉄. 〔极jǐ软~〕含有炭素分0.25%以下の鋼鉄.

〔软 ruǎn~〕同前0.25~0.5%のもの.

上例のように 同前の…… という言い方を用いてもよい。

㊦ 同上② のような取り扱いをした場合、②のあとに . は打たない。

(II) 発音上の略号

①㊦

見出字に読音がある場合には、その綴りの前に㊦の符号をつける。またその読音はその文字のすべての用法にわたるものであると否とにかかわらず、各表音綴りの間はあけておく。また、注釈は各音別にほどこす。

例㊦ 〔车・車] chē ㊦jū

……

例㊦ 〔臂] bèi ㊦bì

A) bèi ①うで. 〔胳膊~〕同前. ②腕で……する. 〔~助〕助ける.

B) bì bèi の文語音. 〔~膊〕うで. 〔膛 táng~当车 jū〕…….

例㊦ 〔玩(骰)] wán ㊦wàn

A) wán ①…… ②…… ③…… ④…… ⑤……

B) wàn wán②④⑤の文語音.

〔玩(斲)〕 wàn ⇒ wán

㊦の符号のふくむ範囲について

〔革〕 gé ㊦jí

A) gé ①…… ②㊦…… ③……

B) jí ㊦急なり, 〔病〜〕……

これは〔车〕における chē ㊦jū の関係のように、chē の全体の文語音として jū があるものと性質がちがう。しかし jí と読んだ場合は、とくに別の文語的な意味を持つので同じように㊦の略号を用いて処理する。

㊦見出字の用例はなるべくその発音が口語音が文語音かにはっきり割りきれられるものを選び、両方に読めるか(あるいは文語音が強い)ようなものは、なるべく見出語の方へまわす。この方法を用いてもどうしても問題だと思われるものは個別的に検討する。

② ㊦又音

㊦又音が正音の見出字の全部の意味の又音である場合は、見出字の注音綴りを離さずに書く。注釈は別にしないで下例のように取り扱う。

〔淋〕 lín ㊦又音 lún lìn

A) lín ㊦又音 lún ①……

……

B) lìn ……

㊦又音が正音の見出字の意味の一部分の用法である場合は、見出字の注音綴りの前に ㊦又音の符号はつけず、注釈のその部分に又音であることを示す。

〔色〕 sè sh à i

A) sè ① ㊦又音 sh à i …… ②……

B) sh à i ⇒ sè①

③方言は次の略号によって分類する。

㊦ 地域不確定のもの

㊦ 北京方言

㊦ 東北 東北地方方言

㊦ 上海方言

㊦ 北方 華北地方方言

㊦ 蘇州方言

㊦ 西南 西南地方方言

㊦ 吳方言

㊦ 西北 西北地方方言

㊦ 福建方言

㊦ 南方 江蘇・浙江・安徽を包括した地方の方言

㊦ 広東方言

〔飞轮〕 fēilún = [㊦北方 甩 shu à i 轮] ㊦发 fā 势盘 ……

〔正经〕 zhèng · jīng , ㊦ ~ jīng

〔糊涂〕 hú · tú , ㊦ ~ · du

㊦ “国語辞典”などに呉語とあるものはそのまま㊦として採用する。四川方言など比較的狭い

範囲にわたるものは略号を使わず、従来きめられたとおり具体的に四川方言などと書く。なお、㊦の略号は㊦および㊦南方とそれぞれ重複するが、その場合に応じて適当に選

択して使いわける。

④ 擬

擬態詞・擬声詞に用いる。なお声調の固定しているものだけ声調符号をつけ、固定していないものにはつけない。

(III) 言い方についての略号

① 俗

標準的な言い方や学名などの正式の言い方に対する俗称、あるいは訛音にはこの略号を用いる。

〔电阻〕 diànzǔ = 〔俗阻力〕 ……。

〔鼻孔〕 bíkǒng = 〔俗鼻子眼儿〕 ……。

〔幕築〕 bìlì , 〔俗biě・la〕

② 成 語 歌

成語の略号に〔成〕を、ことわざの略号に〔語〕を、しゃれことばの略号に〔歌〕を用いる。

例 〔沧海桑田〕 sānghǎi sāngtián 〔成〕 ……

〔班门弄斧〕 bānmén nòngfǔ 〔成〕 名人魯班の前で腕をふるい、自分の技量をわきまえない：盲へびにおじず。釈迦に説法。

上例のようにまず〔成〕などの略号をおき、次に原義成立の意味を先に書き、:を置いて原義に相当する日本語の語句・ことわざなどを後に書く。

③ 転 喻

元来の意義から転用されることを示す略号に〔転〕を、比喩的に用いられることを示す略号として〔喻〕を用いる。

例 〔抱佛脚〕 bàofójiǎo 仏の足にすがりつく。〔転〕 苦しいときの神頼み。

原義を先に説明し、〔転〕あるいは〔喻〕としたあとに転じた意味あるいは比喩的に用いられた意味を書く。なお原義を示しにくいような場合には、冒頭に〔転〕あるいは〔喻〕を置いて直ちに転じた意味あるいは比喩的に用いられた意味を書いてよい。

⑤〔成〕 〔文〕 〔喻〕 〔語〕 〔歌〕 〔転〕などの略号は他の略号と使用法は同じである。すなわち、いずれも必要と思われる場合にだけ付ける。〔成〕の略号についても、これを特別視しないで、必要と思われる場合には使用する。たとえば〔千慮一失〕〔心滿意足〕などには〔成〕の略号は付けなくてもよい。〔下馬威〕には付けた方がよいと思われる。

④ 量を量詞の略号とする。

例 〔挂・掛〕 guà ① …… ③ 〔量〕 車輜とか花火・ぶどうなどひっかけるもの・つり下がったものを数えるのに用いる。〔一〜大車〕 1台の大八車。〔一〜葡萄〕 ひとつぶのぶどう。ただし、この略号を使用しないで済ませることもある。

例 〔张・張〕 zhāng ① …… ④ 〔皮・紙〕などを数える量詞。〔一〜紙〕 1枚の紙。

また、量詞としていろいろなものを数えるのに用い、ひとくちに説明しにくいものは、説明を施さずに、〔量〕〔一〜事〕 ひとつの事(用事)。〔一〜衣裳〕 1枚の着物。とする。すなわち〔量〕としていきなり具体的な用例をならべ、説明して代える。

例 〔房〕 fáng ① <所, 座, 幢> 家. 住家. 家屋. [〜子] 同前.

なお、名詞につく量詞の書き表し方は、それぞれの注釈の前に小文字で〔 〕に入れておく。たとえば

- ㉑ [鳥・鳥] ni ā o [- 儿] <只>鳥。〔小〜〕小鳥。
- ㉒ [书・書] shū <本, 套, 册, 部>書物。
- ㉓ [刀] dāo [- 儿, - 子] <把, 口>刃物類の総称。〔小〜〕小刀。〔菜〜〕(料理用の)包丁。
- ㉔ [肉] ròu 肉。〔一块〜〕ひとかたまりの肉。〔一斤〜〕1斤の肉。
- ㉕ [蚂蚁] m ā y i <只>㉖あり。

上記、㉑の例のように量詞は鳥(注釈)の前に表示する。すなわち〔鳥〕には〔儿〕字がつくので、それを先に掲げ、そのあとすぐ続けて量詞の<只>を置く。この[- 儿]のカッコ及び文字と同じ大きさで量詞の<只>は表示される。

- ㉖はいくつも量詞をとる場合で、同じカッコの中に使われる量詞を並べて書き、間を、 で区切る。そしてこの個々の量詞の使われ方については、いちいちこまかく説明しない。それは〔本 bèn〕〔册 cè〕など各項に行って詳しいことを知ってもらう方針をとる。
- ㉗は注釈のあとに用例のある場合で、〔小〜〕〔菜〜〕など量詞には関係しない用例ばかりをあげ、〔一把小刀〕〔一口刀〕などは例としてとりあげない。すなわち、〔把 bǎ〕〔口 kǒu〕の使われかたについては、同じくそれぞれの項を見もらう。
- ㉘は〔块〕〔斤〕がとくに〔肉〕の量詞として特有のものではない。しかしこのようにごく普通によく使われているものは、さりげなく用例として掲げておく。
- ㉙は見出字でなく見出語の場合で、同じ注釈の前に量詞を置く。

⑤ 人

人名の略号として使用することになっていたが変更し、大辞典本文には採用しない。人名辞典の採録範囲について

- ㉑人名は実在の人物だけを対象とする。
- ㉒架空の人物・小説中の人物、またジョージ・アンナなどのクリスチャン・ネームは入れない(ただし、ノア方舟など事典的なものは本文中に出ることがある。)
- ㉓外国人名は各国の元首などおもだったものはのせる。
- ㉔歴史上有名な科学者・文学者などはのせる。
- ㉕現在の政治・経済・文化関係の有名な人物はのせる。
- ㉖その他はまたのちに検討する。

⑥ 地

地学・地理の略号として使用する。なお地名は別に地名辞典を作り、そこで解説される。大辞典本文の中へ地名が出てくる場合の処置については

- ㉑見出字でしかもその1字だけで地名を表すもの。
例 〔沪・滬] hù 上海の別名。
㉒の略号は用いないで、簡単な説明を施す。

㊸見出字で他の字と複合して地名に用いられるもの。

例 〔角（角）〕 …… A) …… B) …… C) lù〔角〕①地名用字。〔～直鎮〕江蘇省南部呉県に属する。②人名用字。〔～里〕 ……

㊹見出字でほかの意味と関連して出てくるもの。

例 〔河口〕 hékǒu ①河口（かこう） ②雲南省南部の県名。

上例のように、河口のいみと関連して地名が出てくるものは、同じく㊸の記号を用いなくて、簡単な説明を施して処理する。

なお、これらの地名は県以下の単位のごく小さいものは地名辞典にのせなくてよい。すなわち、小さい地名は本文中に例として出すだけで、地名辞典には必ずしもせなくてよい。

〔沪〕〔河口〕などはもとより地名辞典にも採録され、重複するわけである。ただし、本文中の地名と地名辞典に出る地名は互いに関連させなくてよい。上例の㊸㊹㊺に示したように、ただ地理・地学のいみの略号としては依然として使われる。

㊺地名辞典の採録範囲について

㊻日本の地名はのせない。

㊼朝鮮の地名は〔汉城〕などおもだったものをのせる。

㊽外国の地名はできるだけくわしくのせる。とくにアフリカ・東南アジアなどの地名は極力のせる。

㊾国名・首都名はのせる（できれば国名・首都名一覧表を作る）

㊿中国地名は現在の中国の行政区画表に基づく県以上の単位、すなわち県名・専区名・市名・省名などをのせる。

㊻㊼中国の古地名は“国語辞典”などにあるものを選択して採用するだけで、とくにあらたに探し出してのせることはしない。

㊻㊼中国地名のうち、歴史上有名な地名や県より小さいところでも現在とくに重要になったところは採用する。

⑦ 音訳

音訳語にこの略号を用いる。

例 〔配司登令〕 pèisīdēng lìng 〔音訳〕ピストンリング piston ring

〔买办〕 mǎi bàn = 〔音訳〕康 kāng 白渡 〔音訳〕刚 gāng 白渡 ……

上例のように 〔音訳〕の符号をいちいち一語ずつつける。

ただし、略号でわかりにくいと思われるときは、音訳語としてことばを費やして説明する。

⑧ 音義訳

音義訳語にこの略号を用いる。

〔拖拉机〕 tuōlājī 〔音義訳〕トラクター tractor

ただし略号でわかりにくいと思われるときは、音義訳語としてことばを費やして説明する。

⑨時代区分をあらわす略号は使用せず、用語は適当に考え、以下のようにあらわすこととする。

古代（唐以前、殷・周時代までを漠然という）

昔時（宋・元・明・清初を指し、ときに古代をもふくめる）

旧時（清末より民国時代を指す。清末・民国時代という言い方も時に応じて用いる）
 現在（人民共和国成立後と言ってもよろしい。なお解放後という言い方はさしきわりの
 が生ずるので用いない）

例 〔大辟〕 dàbì ㊦古代の死刑。

ただし、朝代のはっきりしている各時代の制度・官職・習慣・事件などを注釈するときには、それぞれ冒頭に ㊦㊧㊨㊩㊪㊫㊬㊭㊮㊯などの略号を用いる。

㊰①歴代の制度・官職名の処理について

㊱古典やその他白話文献を読むために必要と思われる制度・官職などは相当程度採用する。〔尚書省〕〔吏部〕〔刑部〕〔翰林院〕〔巡撫〕〔按察使〕〔都統〕などは採用する。

㊲“国語辞典”の切りはりなどで現存するカードをなるべく捨てずに採用する方針をとる。

㊳はっきり注釈の施せるもの、簡単に説明できるものは全部とり入れる。

㊴注釈の不可能なものは採用しない（たとえば清朝の官制・軍制などで、ごくささいなもの、不明確なものはとり入れない）

㊵②書名・書楼名の採録範囲について

㊶古典（いわゆる漢文）に属する書名は、そのうちごくおもだったものを採用する。

〔论语〕〔说文〕〔四书五经〕〔四库全书〕〔十三经〕〔诸子百家〕などは採用するが、大学・儀礼・通雅などは個個にとりだして解説はしない。

しかし、〔十三经〕あるいは〔诸子百家〕の項で事典的説明を施すとき、それに関連して出てくる。

㊷歴代の白話文献は極力採り上げて解説する。すなわち唐・宋・元から清朝までの白話小説などは大部分採り上げて解説する。

㊸現代の作品はどれを採用するか決定しにくいので、いちいち相談の上、有名で必要と思われるものは採用する（付録の語彙蒐集のために作成したリストを参考にしてとりきめる）

㊹書楼名は有名なものだけ採用する。〔汲古閣〕〔文苑閣〕〔守山閣〕など。

以上はだいたいの目安であって問題がでたときにはそのつど相談し決定する。

⑩ ㊦㊧

古白話を注釈する場合、例文を示さない場合には、注釈の冒頭にこの略号を用いておく。

(IV) その他の略号

書	書名	哲	哲学	仏	仏教	史	歴史	山	山岳
河	河川	軍	軍事	法	法律	経	経済	数	数学・算法
理	理科	化	化学・化合物	天	天文・気象	鉱	鉱物・鉱山		
植	植物	動	動物	虫	虫類	魚貝	魚貝類	鳥	鳥類
医	医学	中	漢方医学	生	生理学	薬	薬学・薬物・薬草		
工	工学	土	土木	建	建築	機	機械	電	電気
紡	紡績	織	織物	染	染色	色	色名	度	度量衡

だけの簡体字となる.)

鍾 ([钟] の繁体字として新しく追加される. すなわち [钟] は [鐘] [鍾] 2個の繁体字をもつことになる.)

④中国の簡体字と日本の略号のうち、まぎらわしい字

中国	亚	恶	压	围	荣	营	盐	应	假	经	茎	惠	县	俭			
日本	亜	悪	圧	囲	栄	営	塩	応	仮	経	茎	恵	県	儉			
中国	斋	册	残	戈	实	释	处	称	图	醉	齐	迹	摄				
日本	斎	冊	残		実	釈	尺	処	称	図	酔	斉	跡	撮			
中国	争	续	单	团	传	专	东	德	式	恼	卖	冰	佛	变	与	两	猎
日本	争	続	単	団	伝	専	東	徳	式	悩	売	氷	仏	変	与	両	獵

H) 文法用語

文法用語は以下の述語を使用する.

(I) 品詞

名詞	固有名詞. 普通名詞 (一般名詞). 抽象名詞.
	数量詞 (数詞-基数. 序数. 倍数. 分数. 概数)
	(量詞-名量詞. 動量詞)
	時地詞 (時間詞. 場所詞. 定位詞)
代名詞	(人称代名詞. 指示代名詞. 疑問代名詞)
動詞	(自動詞. 他動詞)
形容詞	(性質をあらわす. 程度～. 状態～)

繫動詞	(準繫動詞)
助動詞	(前置助動詞. 後置助動詞)
介詞	
副詞	(前置副詞. 後置副詞)
接続詞	(順接. 反接)
助詞	(語気詞をふくむ)
擬態詞	
擬声詞	
接頭字	
接尾字	
感投詞	

(II) 文の分類

構造からの分類

単文	
複文	— 連動式. 通繫式. 複合式.

〔 主語述語文 — 名詞述語文 (判断文)、形容詞述語文 (描写文)、動詞述語文 (叙述文)、
無主語文

〔 完全文
省略文

〔 正常文
倒置文

用途による分類

平叙文

疑問文 (反語文をふくむ) — 特定疑問文、諾否～、選択～、反復～、間接～、語気～、

命令文

感嘆文

その他、特に注意される用語

主語 述語 賓語 補語 詞 (単語・述語) 単音詞

多音詞 態 (aspect) 軽声 軽読する 重念 重読する

自動文 使動文 被動文 () 内の用語は使用しない。

- ㊦①文法用語の説明は、辞典本文のなかにはほどこさない。巻末に簡略な文法表をのせ、それで補うこととする。なお辞典本文の中での各字についての文法的説明は、従来きめられている文法用語を使用して説明する。
- ②見出字・見出語の解説にはなるべく文法用語を用いなくて処理するようにつとめる。
(すなわち、実例を豊富にあげて説明に代える方向をとるわけである)
しかし、文法用語を使って説明する方がよくわかる場合はもちろん使用してさしつかえない。
(文法用語は前頁に掲げてあるものを用いる)

付録

(I) カード整理上の諸注意

- ① 取捨の目印 “漢語詞典” および “同音字典” のすべての語・用例に対しては、採用・不採用の印を○×を用いて、もれなくつけておく。
鐘ヶ江中国語辞典、香坂・太田現代中日辞典は、“国語辞典”・“同音字典” なみに取り扱い、必ず参照・検討する。各整理者がある字について、見出語まで整理が終わったあと、すぐに前述の辞典のその字の項を見て、当方ないもの、あやまりなどを対照するようにする。なお採用にあたっては十分吟味を行うことはもちろんであるが、採否のしるし ○ × をつけるかどうかは各自の気持ちにより、随意にしてよい (“同音字典”・“漢語詞典” には全員が○ × をつけなければならない)
- ②挿図について 図を入れると一見して実体がわかるような場合にはなるべく図を入れるようにする。カードには略図またはそれに適当な図のある場所を書き込んでおく。
- ③カード整理にあたって = ⇒ → は煩をいとわずそのつどいちいちあたってたしかめていただく。なおたしかめたものには鉛筆でチェックしておいていただく。

④カードのうち2枚3枚にわたって長い説明を加えたものがあるが、なるべく1枚にまとめて書くよう努力する。

⑤1字アケの励行 カード記載上、注釈のあと例文の前、例文と例文の間は1字あけるのが原則で、くっつけずに1字アケを励行していただく。

⑥古典語の取り扱いについて

①古典語および詞・曲などの語彙はまとめて一か所にとり出しておく。ただし、その中で現代語として注釈も用例もつけられるものは現代語とみなして処理して、それ以外のものは全部一律にとり出して所定のボックスにまとめておく。

②上記①に関しては後日、中国で最近にでた古典の注釈本など確実な資料と対照して、必要と思われるものを選び出して採録する。

⑦〔許・許〕xǔ hǔ などのように整理の都合上hǔの発音を先に整理するような場合の処置について。この場合、主要音はxǔで、そこにhǔの説明も施されるわけであるが、アルファベット順に言って、どうしてもhǔの方を先に整理することになる。それでhǔのところは単に〔許〕hǔ ⇒ xǔ B) としておいてよい。そしてxǔのあるxu〔許・許〕のカードのところへ行き、そのうちのhǔの部分を処理しておく。すなわちxǔに関する解説は、そのまま手をつけずにおき、自分が関係するhǔについては処理を完全に済ませておく。

以上の〔許〕の場合はアルファベット順から言って主要音があとになるために起こってくる問題である。これと反対に主要音が先にあるものはもちろん発音の全部にわたって処理する。たとえば〔給・給〕gě jǐ や〔解〕jiě jiè xiè

①同一のカードが幾枚もある場合、なるべく“国語辞典”・“同音字典”の切りばりしてあるカードを残すようにする。

②張先生の書き込みのあるカードはなるべくそのまま見えるように残しておく。

③✓印の処理ずみの ⇒ を動かすとき、書き換えるときなど、たとえば ⇒ [……①] とあるような場合の①を②に変えるようなときは、気をつけて必ず相手カードを突き止めて直しておく。

⑧〔油汪汪儿地〕のように同じ字がかさなる場合、2字目を〔々〕で省略してはならない。必ず実字で書き〔汪汪〕とする。〔干干净净〕〔慢慢地〕〔规规矩矩〕など。

⑨原文に？！などの符号がついていたら、それをそのまま引用すること。随意に改めてはならない（なお、疑問符・感嘆符は日本文の訳文中には原則として用いない）

⑩日本の略字、中国の簡体字は編集整理・植字などの面倒を考慮に入れ、とくに意識してはつきり書きわける。たとえば〔对〕对〔团〕团〔边〕边

⑪④方言の取り扱いはたいへんむずかしいので、ひとつひとつ張先生に尋ね、はっきりしたものだけを取り入れる。

⑫わがらがきとつづきがきは定められたとおりに厳守する。

⑬付録は豊富に付けるが、その具体的な内容については、今後検討する。

(II) 整理の分担区分

①印刷所にまかせ、当処では手を抜いてもよいもの

②カード記載の上で発音の次にすぐ解説が来ること。

- ②カード内で①②③と分けるごとに改行してあるものは、一字あけて続けること。
- ③注釈のあと改行して例文をのせている場合も、やはり一字あけて続けること。
- ④見出字・見出語はそれぞれ所定の活字、用例・解説やA) bīn (I) などそれぞれ所定の活字を使い、カードにはいちいち指示しない。
- ⑤中国文の例文のあと、日本文のかつこでくった文章の最後などに . 点を打たない。(疑問符?感嘆符!は入れる)
- ⑥各先生方が整理上、手を抜いてよいもの
- ①例文のあとの点、かつこ内の日本文のあとの点をとりのぞく仕事、また新しくうっかりしてつけてしまったもの。
- ②かなづかいのあやまり、たまにむずかしい字を使う、また文語的な言い方を用いたりすること。
- ③日本の略字と中国の簡体字との混同および偏旁簡化字の訂正。
- ④例文の前、例文と例文の間の一字あけ、①②の間、a)⑤の間の一字あけ。
- ⑤:() の使用上の区別。ときに:であったり、また() であったりしてもかまわない。
- ⑥見出語の配列順序(だいたい順序通りであればよい)
- ⑦A) xì (I) [系] などの場合におけるA) (I) などの操作。
- ⑧[玻] bō → [玻璃] [玻] bō [~璃] ガラス。などの取り扱い。
- ⑨インデックスに類するカードの作成、字音がいくつもある場合に、見出し語のはじめに挿入されるカード、xíng háng のカードなど、いわゆる雑カードの作成。
- ⑩注釈に用いてある文法用語の吟味。
- ⑪注音のしかたの吟味。。(軽声符号)の使いわけ。声調符号を用いない場合の吟味
つづりの下に____を用いる場合、用いない場合。
er 化した音のつづり。
- ⑫著しくきたなく(見にくく)なったカードの書きかえ。
- ⑬→ ↔ にチェックがない場合、相手カードをつきとめること。
- ⑭同一語が2か所以上に出る場合の注音・注釈の統一。
- ⑮出典の書き換え(略号を用いる)
- ⑯略号のつけ加え、同じく削除・訂正。[圖]を[国]になおすなど。
- ⑰事典的に内容の長すぎるカード、植物などについての長すぎるカードの短縮。
- ⑱同前。同上。同下。の用いかけた。
- ⑲[北満洲] など不相当と思われるカードの除去、およびこの種の不適当な注釈の是正。
- ⑳同一見出語に対して注音を幾とおりもする場合は正しいあらわしかた。
- 幾つも字音や異体字がある場合、見出語が一つしかないようなもの(場合により2, 3語ある場合でも)を字解の中に移すこと。
- 外国語のつづりを入れる場合、その前後の符号の正しい使い方。
- ㉑各先生方が担当される整理工作は、以上の諸点をのぞいたあと全部を執筆基準に従って完璧を期してやっていただく。
- ・不要カード(見出語として採用を必要と認めない語や実際には存在しない語のカード)を取

り除けること。

- ・誤り（用字法・拼音・軽重音・注釈・用例などいっさいに関する誤りはもちろん、＝⇒の誤った使用をも含める）はすべて正しておくこと。
- ・とくに取り上げて気をつけていただくこと。
- ・＝⇒の使用を慎重にすること。またこれをまちがいなく実行することは、執筆基準の中でもとくにほねのおれる項目であるが、しかもなお励行していただく。
- ・未整理のカードを残さないこと。
- ・同一見出語のカードを重複させ残さないこと。
- ・幾つもの字音・異体字がある場合、見出語を字音順・異体字順のグループ別にしておくこと。
- ・任意な符号の応用や符号を新しく創作することは避けていただくこと。
- ・注釈の区分（①②③④）の数はだいたい同音字典を基準とすること。

(III) 現在の編集方針および進捗状況の大略 (1960.10.7)

メンバー できれば増員したいが不可能であれば、現在のメンバーでゆく。

分担 主として内容的な仕事を S・M・E・K・U・C 6人が担当、主として整理的な仕事を Z・I が担当、前者と後者の分担範囲を別項の通り明確にし内容の正確を期する。

現在行っている整理の重要性

現在行っている整理は最終的整理のつもりで、できるだけ完璧を期すること。

整理の完成目標

従来、当処が公式に表明してきた、昭和36年度末までに完了という目標は、すでに絶対完遂不可能と思われる状態になっている。しかも外部では整理完了すなわち辞典完成と解している傾向がある。

このことは、35年度末までに整理完了のメドをつけて、学長に了解を求める。

(IV) “語詞採録のための文献目録”

出典名の略号は次のように行う。

①現代の作品の出典名をあげる場合は、作者名の頭の一字と作品名の頭の一字を結びつけ、それに章数・回数をつけるのを原則とする。

例	毛泽东	矛盾论	(毛・矛3)	3は第三節のこと。
	曲波	林海雪原	(曲・林5)	
	茅盾	林家铺子	(茅・林4)	
	周立波	暴风骤雨	(周・暴6)	
	罗丹	风雨的黎明	(罗・风3の2)	第三章第二節のこと。

②なお、上・下、I部II部となっているようなものの取り扱いは、

(周・上I3) 周而复上海的早晨 第I部の第3章

以上が原則であるが、例外を認める。

鲁迅 阿Q正传 (鲁・Q1)

③旧小説などは大体一字の略字を用いる。

红楼梦 (红35)

水浒传	(水 100)	
西游记	(西 17)	
金瓶梅	(金 27)	
儒林外史	(儒 40)	
三国志演义	(三 10)	
西厢记	(厢 5)	西は西游记なので厢とする。
元曲选	(元・汉宫秋 3)	元曲のうち汉宫秋 3 折のこと。

①史記・漢書・詩經・楚辭など古い文献やなじみのうすい書物などは、原則として書名全体を書き略号は使用しない。

- (史记・伯夷叔齐传)
 (诗经・大雅文王)
 (三国志・蜀志・诸葛亮传)
 (左传・僖公 29 年)
 (杜甫・春望诗)
 (捉季布传文)
 (三朝北盟会编)

略号のつけ方の原則

①現代の作品は、作者名と作品名の頭の一字をとって付け、間に中黒点を打つ。

- (老・骆 2) (赵・小 1)

②旧小説・戯曲などの白話文献は一字の略号を用いる。

- (红 9) (金 13)

現代著作小説の部

*印は周楊報告の中の優秀作品

作者名	書名	略号	作者名	書名	略号
老舍	四世同堂	(老・四・惶)	柳青	铜墙铁壁	
老舍	上任	(老・上)		*创业史	S
	离婚		周而复	上海的早晨	C
	骆驼祥子 (劇作は後出)		乌兰巴干	*草原烽火	
鲁迅	呐喊 (全部)	(鲁・狂)	沈从文	边城	
	彷徨 (全部)	(鲁・祝)		自传	
毛泽东	文艺讲话		艾芜	荒地	
	实践论			*百炼成钢	
	矛盾论		曲波	*林海雪原	C
	新民主主义论		孔厥	新儿女英雄传	
郭沫若	自传		马烽	吕梁英雄传	
茅盾	子夜			*我的第一个上级	
	霜叶红似二月花 C		高玉宝	高玉宝	(高・玉)
	林家铺子		李季	王贵与李香莲	

赵树理	小二黑结婚	I		艾青	吴满有	
	李有才板话	I	(赵·才)	徐光耀	平原烈火	
	李家庄的变迁	I	(赵·庄)	杜鹏程	保卫延安	
	*灵仙洞				*在和平的日子里	
	*三里湾	C		杨沫	*青春之歌	
巴金	家			梁斌	*红旗谱	
	灭亡			刘沧浪	红旗歌	
丁玲	太阳照在桑干河上	C		草明	火车头	
丁玲	我在霞村的时候			欧阳山	*三家巷	
周立波	暴风骤雨			袁水拍	*马凡陀的山歌	
作者名	書名		略号	作者名	書名	略号
	*山乡巨变			冯德英	*苦菜花	
黄谷柳	虾球传			德龄	御香缥缈录	
丁西林	一只马蜂				御苑兰馨记	
梅兰芳	舞台生活四十年	S			黎明的河边	
废名	莫须有先生				铁道游击队	
叶圣陶	倪焕之				战斗的幸福	
落花生	缀网捞蛛				乘风破浪	
欧阳予倩	自我演戏以来				风雪之夜	
李广田	引力			白刃	战争到明天第一步	白·战
王统照	山雨					
李英儒	野火春风斗古城	C				
张恨水	梁山伯与祝英台					
吴组缜	天下太平					
叶紫	山村一夜					
柔石	希望					
魏金枝	留下镇上的黄昏					
罗丹	风雨的黎明	C				
宋之的	雾重庆	C				
谢冰心	寄小读者	C	谢·寄			
马加	开不败的花					
骆宾基	北望园之春					
苏军	第三代					
许广平·鲁迅	两地书					
许广平	遭难前后					
李健吾	这不过是春天					
崔秋白	海上述林					

朱自清	背影				
	毁灭				
郁达夫	沉沦				
	自传				
胡适	四十自述				

劇作の部

*印は周揚報告の中の優秀作品

作者名	書名	略号	作者名	書名	略号
老舍	老舍戏剧集 S	(老・龍)		*东进序曲	
		(老・女)	胡可	*槐树庄(剧本 59.8)	
		(老・方)		*追鱼	
		(老・茶)		*红色的种子	
	金家福 C			*鸡毛飞上天	
	春华秋实 S			*冬去春来	
	面子问题			*洪湖赤卫队	
郭沫若	屈原			*文成公主	
	*蔡文姬			*嘎达梅林	
田汉	名优之死			*同志!你走错了路	
	*关汉卿			*战斗里成长	
曹禺	雷雨			*明朗的天	
洪深	五奎桥			*十五贯	
丁毅	白毛女			*生死牌	
夏衍	芳草天涯			*穆桂英挂帅	
设承滨 杜士俊	*降龙伏虎(剧本 59.3)			*杨门女将	
上海人民艺术院	*共产主义凯歌			*搜书院	
陈其通	*万水千山			*芙奴转	
金山	*红色风暴			*父子恨	
杜烽	*英雄万岁			*墙头马上	

映画の部

歴史の部

作者名	書名	略号	作者名	書名	略号
	*上甘岭			*星火燎原	
	*林则徐			*北方的红星	

	*风暴			*红色安源	
	*聂耳			*绿树成荫	
	*董存瑞				
	*战火中的青春				

叙事詩・民間伝説の部

雑

作者名	書名	略号	作者名	書名	略号
	*杨高传			北方土语辞典	
	*赶车传			成语小词典	
	*动荡的年代			中国西北方言资料	
	*阿诗玛			常用词语例解	
	*召树屯			人民画报	
	*刘三姐			人民日报	
	*秦娘美				

旧小説・戯曲の部

作者名	書名	略号	作者名	書名	略号
	董西厢	(董廂)		镜花缘	(鏡)
	西厢记	(王廂)		初刻拍案惊奇	(初拍)
	西游记	(西)		二刻拍案惊奇	(二拍)
	敦煌变文集	(敦)		明人杂剧	(明)
	朴通事谚解	(朴)		明清传奇	(明)
	元曲选	(元)		儿女英雄传	(儿)
	孤本元明杂剧	(孤元)		官场现形记	(官)
	三国志演义	(三)		老残游记	(老)
	水浒全传	(水)		孽海花	(海)
	金瓶梅	(金)		二十年目睹之怪现状	(怪)
	儒林外史	(儒)			
	红楼梦	(红)			

・元曲のなかに、元典選釈や六十種典、閩漢卿戯曲選など雑多な書をふくめてしまい、元曲の全体を(元)であらわし、たとえば(元・汉宮秋3)とし、元曲のうち漢宮秋の第3折であることをあらわすようにする。明人雜劇の場合も同じで、全体を(明)であらわし、後に作品名をつける。(明・易水寒1)明人雜劇のうち葉憲祖の易水寒の第一折の意味。

・なお国語辞典などに(红楼梦)(元曲选)などとあって回数を示していない用例があるが、このうち捨

てるにしのびない例は、(紅)(元)として採用しておく。ただしこれから採集するものには必ず章数・回数を明示する。

古代の文献の部

史记	(史记・高祖本纪)(史记・货殖传)など
汉书	(汉书・艺文志)(汉书・儒林传序)など
后汉书	(后汉书・五行志)(后汉书・光武帝纪)など
诗经	(诗经・大雅丈王)(诗经・周南・卷耳)など
三国志	(三国志・蜀志・诸葛亮传)(三国志・魏志・曹植传)など
左传	(左传・僖公 29 年)(左传・成公 10 年)など
楚辞	(楚辞・远游)(楚辞・天问)など
杜甫	(杜甫・春望诗)(杜甫・兵车行)など
乐府	(乐府・相和歌)(乐府・汉铙歌)など

・古代の文献には出典略号を用いない。歴代の史書や経書・詩文集などは用例として採用する場合が少ないので、いちいち略号をとりきめない。

執筆基準について

1955 年(昭 30) 4 月華日辞典編纂処(現中日大辞典編纂所)が発足し、5 月辞典刊行会が設立されて、評議員、編纂委員、協力委員が任命され、直ちに編集委員会が組織された。鈴木擇郎教授が委員長となり、編集の基本方針や執筆基準等がきめられていった。

夏には内山正夫教授から執筆基準の骨子がまず起案された。またこの頃、新中国では規範的中国語を形成する過程にあり、文字、発音、符号、部首や語彙、語法など様々な問題が審議、決定され次々と公表された。これらは直ちに執筆基準に反映されるべきものであった。従って基準も次々と改訂されることとなった。

現在、1961 年 10 月第 11 次改正のこの執筆基準が唯一まとまった形で残されているので参考のため載せたが、この後もしばしば加筆や削除が行われたため、最終的なものではない。